

会報 No.10

小金井の環境をみんなで考えるマガジン

2009.11

くるりんぱ

kururin.pa

<http://www.koganei-kankyo.org/>



グレンちゃん
ぐんぐん水をのびて
さあ！おしゃべり。
グレンちゃんとは
おともだち？

特集

この秋、 環境について考えてみたい映画 50本

映画の秋、それに環境の秋で
号は環境について考えさせて

す！くるりんぱ創刊記念第10
くれる映画(映像/アニメ)特集。

独断と偏見で(!?)選んだのは小金井市環境市民会議&フレンズの皆さん。直接環境
のことを言っているものもあれば、映画を観たことで環境を考え始めるきっかけにな
るもの、環境がその背景にあるものなど様々です。さて皆さんはどれだけ観ていますか。

クリンちゃん
無ロで
はるかにキレイな
キレイな世界。



長編ドキュメンタリー映画

[里山っ子たち]

2008年/製作・配給:桜映画社

千葉県木更津市にある木更津社会館保育園が行って
いる里山での保育実践を記録した作品です。里山の自
然を相手に子どもたちがどのように成長して行くのか
を、およそ1年半にわたって見つめました。子どもたち
は、泥んこになったり、生きものとふれあい、さらには野
生の木の実を味わったりします。ときには、ケガをし
たり、用水路に落ちこちて大声で泣いたり、感情むき出し
の喧嘩もしょっちゅうです。そんな中でやがて、子ども
たちは、助け合いや思いやり、コミュニケーションなど
の力を育み、たくましく育って行きます。

1960年代に子供時代を田舎で過ごした人には、とても

懐かしい姿が、そこにはあります。現在、安全安心という
観点から、子どもたちの身の回りから危険なものを排除
したり、子どもたちを危険なものに近寄らせないことが
当たり前になっています。果たして、ほんとうにそれが子
どもたちを健全に育てることなのでしょうか。この里山
保育は、子どもたちと自然環境のかかわりを通じて、子
育てのあり方についても、大切なことを問いかけるもの
となっています。(DT)

速報!

映画「里山っ子たち」は11月15日午
前10時より、「かんきょう博2009 in
小金井+国分寺」<会場:東京経済大
学国分寺キャンパス>で上映されま
す(開場9時30分)。入場無料!
ぜひ見に来て下さい。



特集：この秋、環境について考えてみたい映画50本

くるりんぱの今回の映画特集は、いろいろな観点から書かれています。"かんきょう"という言葉だってそもそもとても広いのと同じで、ここに選んだ作品もネガティブ、ポジティブ含めいろいろ考えさせる映画、これこそ環境だ！という映画、子ども(親)たちに見てもらいたい映画、とにかく感動した映画... などなど。環境市民会議&フレンズの独断と偏見セレクションで何が見えるでしょうか。

●『有りがたうさん』 1936年/清水宏監督/76分/
DVD発売元:松竹ホームビデオ/出演:上原謙 / 桑野通子



川端康成の短編小説の映画化。伊豆半島を上り方面に向かう乗り合いバスの人間模様。様々な人が乗り合わせ、ふれあう空間としてのバス。

時の流れと共に速度がどれほどコミュニケーションを変えていったか考えてしまう。

「有りがたうさん」とは、バス運転手が、(行商など)道行く人々に「道を空けていただき有り難うございます」の意味。以前の交通がコミュニティ形成に果たす役割は大きかった。(OK)

●『或日の干潟』 1940年/下村兼史監督/理研科学映画/19分



なんと69年前の映画だが、干潟口で野鳥やカニ、魚貝など、ありのままの自然を捉えた歴史的な名作。ラストシーンで干潟の上を旧日本軍の戦闘機"隼"ががすめ飛ぶのが印象的。干潟は生命のゆりかごといわれる環境だが、日本では役に立たない場所との評価で戦後あっという間に埋め立てられたり灌漑されて失われてきた。東京湾でも某巨大レジャーランドのある場所は東京湾で最後のガンの渡来地である。

ちなみにこの映画の著作権は切れており無料なら公開可能。貸出用ビデオは千葉県図書館にあったと思う。監督の下村兼史はたぶん日本初自然記録映画製作者。明治36年2月14日生れ。農林省嘱託となり、野鳥の生態写真をとる。昭和14年理研科学映画にはいり、「或日の干潟」で好評を博す。「富士山麓の鳥」「ライチョウ」など野鳥や自然を記録した作品を多数製作した。昭和42年4月27日死去。(NYA)

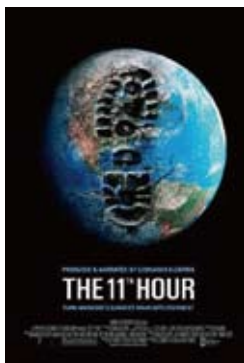
●『Earth』 2000年アメリカ/アラスデア・フォザーギル監督/配給クリオネ



地球上の様々な生き物(ホッキョクグマの親子やヌーの群れ、ザトウクジラ)の営みを追いかけ、迫力のある映像で表現しています。四季を通しての地球の美しさ、素晴らしさを感じて実感し、未来に残していきたい思いにさせてくれます。(HH)

ての地球の美しさ、素晴らしさを感じて実感し、未来に残していきたい思いにさせてくれます。(HH)

●『11th Hour』 2007年アメリカ/レイラ・コナース監督/ワーナー・インディペンデント・ピクチャーズ配給



50人を超える環境分野の主要人物の協力により制作された「11th Hour」はレオナルド・ディカプリオが製作しナレーションも担当。前半は惑星の生活システムの直面する深刻な問題について、そして、後半はそれに対する可能な解決策に関するもの。今まで作られた環境に関する映画の中で最もお勧めの作品。(PS)

●『いのちの食べ方』 2005年ドイツ・オーストリア/ニコラウス・ゲイハルター監督/配給:アップリンク/PG-12

ナレーションどころか、BGMも入っていません。ヨーロッパ各地で、野菜や果物、鶏や豚、牛たちが、どのように収穫されたり、育てられ屠殺されて食卓にあがるのかを、ただひたすら2



年間かけて追い続けた「食」のドキュメンタリー映画です。見る人によっては、少し気持ち悪くなるかもしれませんが、私たちの国でも、

ほとんど同じように『食べ物』がつくられているのです。目を背けるのではなく、これが事実であることを踏まえて、ほんとうにこれでいいかどうかを考えるための最適の素材といえます。(DT)

●『イントゥザワイルド』



2007年/アメリカ/ショーン・ペン監督/配給:スタイルジャム/日本版DVD販売元: Happines
23歳の青年が(お金を含め)モノを持たずに、自然と共に生きる旅を描いた作品。北米の大自然が美しい。主人公の生き方や価値観

に共感するかしないかは、あなたが登場人物のどの立場に立つかという視点の違いによる。「幸福は人と共に分かち合うもの」と最後に気づく主人公が切ない。(OK)

●『ウォーリーWALL・E』



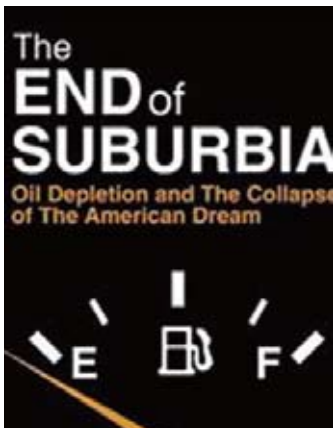
2007年アメリカ / アンドリュー・スタントン監督/配給:ウォルト・ディズニー・スタジオ
29世紀の地球。地上は荒れ果て、ごみだらけ。人間が宇宙に脱出した後、一人ごみの分別・処理をするロボット、ウォーリー。彼の発見した植物の意味するもの

は?宇宙船での超快適な生活に安住する人間が、ロボットによって人間性を回復する皮肉さ。憧れの女性ロボットを思う一途さ。壮大でファンタスティックな宇宙遊泳。幸せとは、地に足のついた生活の中で、誰かと手をつないでいられること。(NYO)

●『浮世物語』

2001年/アラン・エスカール監督
世界的なヴィジュアルエフェクト・アーティストであるフランス人のアラン・エスカールが、1945年の広島、室町、平安という日本の三つの時代を交錯しながら描く壮大な夢物語。反核だけをテーマに制作された作品ではないが、核兵器(原爆)の恐ろしさを描いた外国人演出の作品としては貴重なアート作品。(MA)

●『エンド・オブ・サバービア』



2004年アメリカ/グレゴリー・グリーン監督 / Studio: Microcinema DVD 郊外の終焉を意味する「エンド・オブ・サバービア」は過去60年間米国(ヨーロッパと日本で本当のもの)の現代的な郊外の生活様式がどれほど安価な燃料に依存してきたかという問題点を指摘し、今後どのように私たちが急速に減退してい

く原油供給に向き合うべきかを考えさせられるショッキングな映画。アメリカの大量石油消費社会が形成されていく過程がよくわかる。近い将来間違いなく石油の需要と供給のバランスが大きく崩れる。この映画をみると、とても重苦しい気分になるが、目を逸らせてはいけないと思う。(IN+PS)

●『おいしいコーヒーの真実』



2006年アメリカ・イギリス / マーク&ニック・フランス監督 / 配給:アップリンク 諸国民を

幸福と繁栄に導く筈の貿易の自由化、経済の国際化が、世界の半分の生活の悪化…貧困と飢餓、それに基づく社会混乱をもたらしている。少し細切れで、坦々とした映像なので判りにくい感じもするが、NY発の世界の市場的支配と、我々の日常生活そして1次産品生産国との関係を結合してイメージするのに役立つ作品。(NS)

●『お茶漬の味』



1952年/小津安二郎監督/配給:松竹
エンディングのシーンは「東京ってこんなに美しいまちだったの!?!」と感嘆させられる。ひるがえって高度成長の残した負の遺産に愕然ともさせられる作品。(YM)

●『オランダの光』

2003年オランダ/ピーター・リム・デクローン監督/配給:セテラ
フェルメールや、ターナーら画家たちの追い求めたオランダの風景のなかの光の根源を探求するドキュメンタリー。風景というより、光それ自体に視点をあてて検証して行く。キーワードはヘイゼル湖そして都市開発。画面は美と静謐さを漂わせる。(OK)



●『降りてゆく生き方』



ゆきたい、と感じた。(IN)

2009年/倉貫健二郎監督
ひたすら上を目指してきた
団塊世代の男が、これまでの
価値観を改め地に足のつ
いた生き方に転換していく
様を描いたもの。「落ちてゆ
く」との違いをきちんと認識
し、勇気を持って「降りて」

●『崖の上のポニョ』



2008年/宮崎駿監督/製作:「崖
の上のポニョ」製作委員会/配
給:東宝

子どものお魚「ポニョ」が5歳
の人の子ども・宗介と出会う
不思議なアニメです。子ども
のお魚「ポニョ」は自然を摂
理を動かす、大きな力を発揮

し、天変地異を起こし、町を水没させますが、多く人の生活に
大きな被害がある筈のその世界とその環境の変化を、今まで
に見えなかった新しい世界と出合いの場として描いていきま
す。子どもの頃、大きな台風が来ると聞いた時に、何かに出會
うのではと「わくわく」気持ちを形にしたようなアニメでした。
(DH)

●『風の谷のナウシカ』

1984年/監督:宮崎駿/製作:
徳間書店・博報堂 /配給:東映
自然、文明、戦争…今、私たちが生きる環境を語るために必要
なキーワードが、この物語の世界観には込められているよう
に思います。(SR)



●『家族』

1970年/山田洋次監督/制作配給:松竹
長崎の炭坑町での苦しい生活から逃避し遠く北海道の大地
に広がるユートピアに夢を求めて東上する一家。道中家族が
減り脱落者が
いたり過酷な旅
を描くまさしく
ロードムービー。
行く先々で高度
経済成長の
様々な側面、農



村解放運動など変わりゆく日本が描かれ、淡々と感情を抑制
したドキュメンタリー風の映像は山田作品では異色と言われ
ているが自分はこれが一番好きだ。北海道のユートピアが結
論ではないが、環境的生活としてどうなのか考えさせてくれ
る。(OK)

●『河童のクゥと夏休み』



2008年/宮崎駿監督/製
作:「河童のクゥと夏休
み」製作委員会/配給:松
竹

小学生の男の子と、江戸
時代からやってきた河童
の子ども・クゥとの物語。
河童伝説のある岩手県遠

野。東京タワー。黄色い電車が走る西武線のとある駅…。数百年の時間は、一瞬一瞬の時の連なりにほかならない。「失われた～」という言葉の口にするのが空しくなるような、「涙のち
晴れ」のリアル・ファンタジックなアニメーションです。(MM)

●『川の水』



平川哲生監督/原作:松浦寿輝/NHKエン
タープライズ

7/20 海の
日にたまたま
TVで観まし
た。くまねず
みが工事か
何かで巣を

追われて長い放浪の末、やっと新しい生活の場を見つける物
語です。朝食をとりながらでしたのできちんと観たわけでは
ないのですが、川の様子が小金井を流れる野川そっくりなの
です。もう一度、観たいと思っています。原作を読みたいと本
屋に行ったのですが、再販されてないとのこと。地元の図書館
に問い合わせたところ予約待ちです。(KK)

●『草とり草子』



1985年/福田克彦監督
成田空港近く
で農業を営む
老女が畑で
草とりをする
場面をカメラ
は捉えていく。
そこに全篇、
老女自身によ
る80年以上に

わたる個人史が語られる。老女の草を「とる」行為と監督福田
克彦が映画を「撮る」行為からこのドキュメンタリー映画は成
り立っている。老女の手元を繰り返し丹念に撮影した8ミリカ
メラならではの画面に、土と共存する人間の真の姿を垣間見
る思いがした。(MA)

●『雲～息子への手紙』



2001年/ベルギー・ドイツ
/マリオン・ヘンセル監督/
配給:アップリンク

これはドキュメンタリー？
淡々とした世界各地の雲
の映像に、一人で育て上
げた女流ドキュメンタリー
映画監督の母から成長し

た息子への手紙の朗読。映像が流れて行くうちに次第に、母
が地球、息子が人類とも思えてくるのです。ちなみに仏語朗
読はC・ドヌーブ、英語版はC・ランプリングです。(OK)

●『夏至』



2000年/フランス=ベトナム/トラン・アン・
ユン/配給:アスミック・
エース=日本ビクター

二つの戦争を経て、ベ
トナム・ハノイには優雅
でゆったりとした時が
流れ始めているように
思われる。カット全てが

美しい!都市生活に重要な水が効果的に使われ、そんな水や
時の空間に人の心の揺らめきが写り込むような気がする。村
上春樹原作の映画「ノルウェイの森」完成公開が待たれるト
ラン・アン・ユンの秀作です。(OK)

●『ゴジラ』



1954年/本多猪四郎監督/配給:東宝

ビキニ島の核実験により起きた
「大五福竜丸事件」をきっかけに
製作されたと言われている。核の
落とし子として描かれた怪獣「ゴ
ジラ」は、東西冷戦時代の恐怖の
象徴である。この作品が我国への

原爆投下からたった9年後に製作された事は驚異であり、そ
の後の多くの作品に影響を与えた事からも日本映画史上の
傑作の一本である。(MK)

●『サイレント・ランニング』



アメリカ/1972年/
配給ケーブルホーク/
配給 ユニバーサル・ピ
クチャーズ

2001年、植物が死に
絶えた地球。植物を含
む生態系を巨大ドーム

に詰めて地球を飛び立った宇宙船。しかし、乗組員たちは
仲違いで全滅。最後に残されたロボットたちがけなげに植物
に水をやり続け、宇宙船だけが永遠に地球を周りつづける...
とても詩的な小品でJ・バエズのフォークソングとSFXのミス
マッチがいい。1970年代初頭の早すぎた環境映画。トラン
ブル監督は以降『未知との遭遇』、『スタートレック』、『ブレード
ランナー』の特殊効果で巨匠に上り詰める。(OK)

●『地獄の黙示録』

アメリカ/1979年/フランシス・
フォード・コッポラ監督/配給:日本ヘラルド映画

最大の環境破壊「戦争」の様々な側面をベトナム戦争を舞台
に描写。膨大な製作費により再現された「戦争」は、単に戦争
が恐怖や悲劇として語られるだけでなく、人間の本能による
快楽まで暴いており、秀逸である。2001年に公開された「特
別完全版」は、より主題が明確になるようなシーンが追加さ
れており、未見の方にはこちらをお薦めしたい。(MK)



●『slow is beautiful』

(Short Films)



2003年/中野裕之
監督/配給:ギャガ・コ
ミュニケーションズ
音楽をかけて、服を
選んで、自転車が出
かける。そんな友達
との待ち合わせまで

の時間が、ゆっくりと描かれています。個性的な作品が詰まっ
た短編集のなかの1作品です。(SR)

●『ソイレントグリーン』

1973年/リチャード・フ
ライシャー監督/配給 メトロ・ゴールドウィン・メイヤー

西暦2022年、人口増加で資源が枯渇し、少数特権階級と
多数の貧民という格差の激しい社会になり、貧民が路上に
溢れています。かれらは、ソイレント社の「ソイレント・グリー
ン」を食べて命をつなぎますが、それが人間の死体からつく
られていることが明かされます。この結末は途中で読めま
すが、実際には人口増は「人肉食」にいたる前に、資源争奪
戦などを招き、社会の破綻をもたらすでしょう。少子高齢化
などによる人口減が、必要であることが示唆される映画です。
(DT)



●『チャイナ・シンドローム』



1979年/ジェームズ・ブリッジス監督/配給:コロムビア映画
原子力発電所事故の恐怖と内部告発を題材にした作品。全米公開直後にスリーマイル島原子力発電所で事故が起こり、これ以上ないほどの

迫真性を観る者に与えた。公開から30年、そのテーマ性は今も薄れるどころか、緊迫の度は増すばかりである。(MK)

●『長江哀歌』

2006年/中国/ジャ・ジャンクー(賈樟柯)監督/配給:ビターズ・エンド、オフィス北野



長江の三峡ダム建設により2千年の歴史と文化がわずか2年でダム湖に沈む。最小限の

俳優と四川省奉節の人々によって、時代に翻弄される小さな人生ドラマが、雄大な長江を背景にドキュメンタリーのような映像でゆったりと流れる。破壊と解体の石鎚の音が山水画の山々に幾重にもこだましながら、「豊かさ」とは何なのかを静かに問いかけてくる。(TH)

●『デッドマン』

1995年/アメリカ/ジム・ジャームッシュ監督/配給:フランス映画社(瀕死の「銃」傷を負った男(演:ジョニー・デップ)が、残った時間の中でいのちの手触りを確かめながら死に場所



を求める旅。ジャームッシュらしい飄々とした部分を残しつつも、生と死の間を彷徨うロード(?)ムービー。モノクローム映像、ニール・ヤングのサウンドも絶妙。(TT)

●『東京クロム砂漠』

1978年/制作:倉岡明子、山邨伸貴 他

墨田区の日本化学に勤務した工場労働者の多くが、猛毒の六価クロムによる鉍毒被害にあった。この作品では、六価クロムの毒性の実態を追究していく過程で、工場の廃土を利用した埋立地から毒性が残存していることが明らかになっている。築地市場の豊洲移転での土壌汚染が問題となっている現在、改めて見直されるべきドキュメンタリー映画と言えよう。(MA)

●『取手の音楽』

2006年/野村誠+野村幸弘作品/取手アートプロジェクト2006



作曲家・野村誠が鍵盤ハーモニカを片手に取手の街を歩く。

競輪の選手、工場、子ども、犬、河原の風…。即興で生まれる街とのコラボレーション。

よく聴くことから、街の風景がよく見えてくる。(SR)

●『にがい涙の大地から』

2004年/海南友子監督



敗戦時日本軍が中国で遺棄した毒ガスによって、戦後60年を経た現在でも多くの死傷者が出ている。国際条約で禁止された毒ガスの所有をを隠すた

めに大量に遺棄された毒ガスによって、人生を台無しにされた人々の悲痛な声に真摯に向き合ったドキュメンタリー作品。毒ガスの後遺症で止まらない激しい咳の一つ一つが、我々に大量破壊兵器である毒ガスの恐ろしさと責任を問いかける。(MA)

●『乳泉村の子』

1991年/中国・香港/謝 晋(シエチン)監督/配給:東宝東和

中国江南省の乳泉村。日本軍が撤退した後の廃墟で暮らす羊角は、一人の赤ん坊を拾い孫として育てる。中国残留孤児の半生を描く日中友好条約締結15周年記念作品。侵略者日本人の子供としていじめられたり、実母との再会などでは泣かされた。広大な中国の大地の持つ懐の深さにも感じるものがある。(NYO)



●『パワー・オブ・コミュニティ』

2006年アメリカ/フェイス・モーガン監督/Studio: Community Service, Inc

「パワー・オブ・コミュニティ」(コミュニティの力)はキューバが1991年のソ連の崩壊によりもたらされた経済危機から立



ち直り、どのように石化燃料不足のなかで生き抜いたかを探索します。作品はキューバの人々の生の記録を交えつつ、輸送、農業、薬品、および他産業を利用しながらポスト石化燃料問題に順応する方法を示唆しています。(PS)

●『パンズ・ラビリンス』 2006年メキシコ/スペイン/アメリカ /ギレルモ・デル・トロ監督/配給:CKエンタテインメント



【Cubical】(ダーク・ファンタジーと称される所以、映像や美術の素晴らしさと対照的に、主人公の少女を待ちうける悲しく残酷な運命。見ていて切い…助けあげたくなる。しかし、ラストは見る人によって解釈が別れるかも) (TT)

●『不都合な真実』 2006年/D・グッゲンハイム監督/出演=アル・ゴア他/配給:クリオネ

『不都合な真実』という映画は、地球温暖化問題については、よくできたプロパガンダ映画です。私たちはグローバル経済において、「さらに豊かな生活」をめざし、芥川龍之介のいう『蜘蛛の糸』のトップにいます。下を見ると、中国やインド、ブラジルの人びとが大挙この糸をよじ登り、ずっと下ではアフリカの人びとも蠢いています。地球環境問題という蜘蛛の糸はプツンと切れそうです。下に向かって「登るな!」と叫ぶことは、わたしたちの消費生活の数十分の一以下で暮らしている



人々には「生きるな!」ということなのです。アフリカでは多くの人びとが貧困と飢餓に陥り、最大の環境破壊の「戦争(紛争)」がアフガニスタンやパレスチナなどでつづけられています。他方、『不都合な真実』のPR活動をするゴアさ

んはじめ地球温暖化を「職業」とする人たちは、このような人たちのことには触れずに、飛行機や車を使って世界中を駆け回っています。それどころか現在の経済の枠組みを前提に、CO2の排出権取引つまり「より汚れていない空気」と「汚れた空気」の取引など、新たな「環境ビジネス」による「豊かな経済」の創出に躍起になっています。この映画は、現在の枠組みの中での小さな善意や道徳を打ち出すだけで、環境破壊の最大の原因である貧困や飢餓の原因を追究していません。いまの経済社会の仕組みを根本的には変えさせないプロパガンダなのかもしれません。(DT)

●『プラネテス』 NHK BS2/2003.10~2004.04/谷



口悟朗監督/DVD販売元:バンダイビジュアル

「プラネテス」は、「惑星」の語源となった言葉です。地球周辺の宇宙空間にごみ(デブリ)があふれている時代の、宇宙ごみ回収業を主役としたアニメで

す。大きな組織の中で様々な人々の葛藤、先進国と発展途上国の経済格差といった社会問題なども表現され、SFとしても大変良くできた作品で、2005年度星雲賞メディア部門を受賞しています。地球環境問題がどこまでも人の営みからなることを感じさせるテレビアニメとして、歴史に残る良作です。(DH)

●『ふるさと』 1983年/神山 征二郎監督/配給:松竹富士



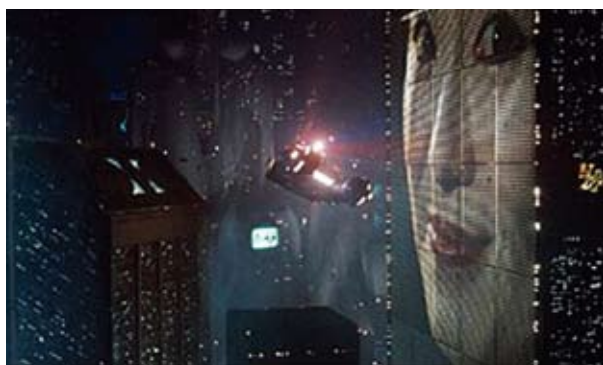
映画の公開は20年前のこと。湖底に沈み行こうとしている岐阜県・徳山村を描く。息子たちがダム工事に出ている中、妻を亡くした伝三のボケは進み、鍵をかけられた離れに一人。昔はアマゴ釣りの名人だった伝三を慕う少年との交流。「山はなあ、木や花がなあ、みんな生きとるから、一人でおっ

ても、ちっとも寂しくないんじゃ」。名優 加藤嘉が熱演。ダムの完成間際に伝三は亡くなる_____。(NY)

●『ブレード・ランナー』 1982年アメリカ/リドリー・スコット監督/配給:ワーナー・ブラザース映画

なぜSF映画?…雨に降込められた憂鬱な末世的世界観からは、搾取されつくした地球環境の行く末を。人間に狩られるレプリカント(アンドロイド)の存在からは、生存権を無視したクローン技術の暴走を感じたからです。命果てる間際(活動

停止)のレプリカント(演:ルトガー・ハウアー)が垣間見せた行動と、束の間差し込む陽の光の美しさが印象的です) (TT)



●『ボウリング・フォー・コロンバイン』 2002



年アメリカ/マイケル・ムーア監督/配給:ギャガ・コミュニケーションズ

コロンバイン高校銃乱射事件を扱ったドキュメンタリー作品。

アメリカの銃社会という極めて特殊な環境の背景を、他の先進諸国との比較からあぶり出してゆく。なぜ米国だけが銃犯罪が突出しているのか? アポなし突撃取材を敢行し、銃社会容認の根源はどこにあるのかを突き止める。(MK)

●『HOME』 2008年フランス/ヤン・アルテュス=ベル



トラン監督/配給アスミック・エース

以下はこの映画の監督のコメントです。「空から見た地球は私にとってまさに人生を一変させるような素晴らしい出来事でした。これまで

私が世界中の空を旅して見たこと、感じたことを、世界中の皆さんと共有したいと思っています。そして私たちの“HOME”(地球)について今一度考えるきっかけとなることを願います。」監督の言葉通り地球上のあらゆる場所のスローモーション俯瞰映像の連続である。海、山、森、水、氷、動物、植物、砂漠、都市、更に自然破壊…、精緻な画面でじっくりと見せる。“アース”の2番煎じの感だが監督の言葉通り地球について考えさせられる映画ではある。(FM)

●『祭りの準備』 1975年/黒木和雄監督/配給:ATG



脚本家中島丈博の自伝的作品。脚本家になる夢を胸に秘めた青年が、地縁・血縁という狭い環境で、もがき苦しみながら旅立つ日を向かえるまでを描い

ている。伝説のラストシーンは初見から30年、近年再見した際も全く色褪せていなかった。(観客としては、江藤潤と原田芳雄の感情移入の立場が年齢とともに逆になったが) (MK)

●『未来少年コナン』 1978年/宮崎駿監督/放映:



NHK/DVD販売バンダイビジュアル

2008年最終戦争によって壊滅した地球。わずかに残った「のこされ島」で育った野生児コナンが、再び強大なエネ

ルギーを手に入れ巨大産業国家を建設しようとする勢力と闘う長編物語。宮崎駿初期の作品の一つ。「風の谷のナウシカ」「もののけ姫」などにつながる原点というべきストーリー。宮崎作品の中でも数少ない少年が主人公の作品で、この後少女が物語の中心になるのはなぜか。(TH)

●『武蔵野夫人』 1950年/溝口健二監督/制作東宝/



DVD販売元:東宝株式会社

フィリピンより帰還直後の作家大岡昇平が水と緑の小金井の崖(ハケ)の風景の中で著した原作を巨匠溝口健二+田中絹代の黄金コンビで映像化。しかし小金井の風景は一切使用されていない。原作「武蔵野夫人」の精神構造と当時の小金井の風景を感じるなら原作を読んでほしい。一方で、本作を愛憎ドラマとして映像化し

た失敗から立ち直った溝口は、その後世界的名作を次々に発表したことも確かだ。(TK)

●『蟲師』 2005年~2006年/長濱博史監督/『蟲師』製作



委員会シリーズ/フジテレビ系列・BSフジ

時代はおおよそ明治の頃、舞台はほぼ日本の農山漁村。生命の原体「虫(もののけ姫のコダマみたいなモノ)」を寄せる体質の

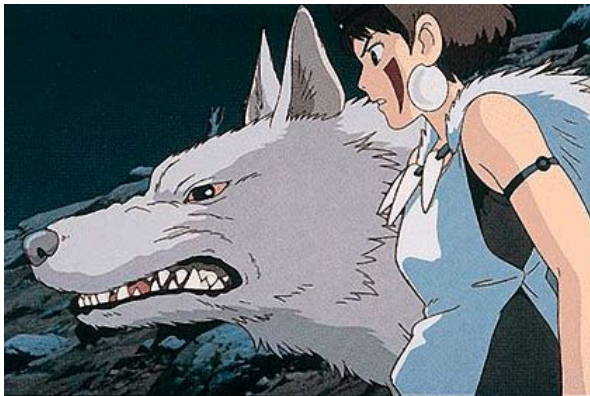
主人公が、各地を巡りヒトと虫とのさまざまな事象に関わる話です。日本の自然を活写した美術背景が素晴らしく、各話の作画・演出のクオリティも非常に高いのですが、こんな地味な作品をよくテレビシリーズ化したなと感心しました。僕は観てないですが、オダギリジョー主演で実写化もされています。(TT)

●『萌の朱雀』 1997年日本/河瀬直美監督/配給:ビ



ターズ・エンド
奈良の山村を
舞台に、1家
族の濃密かつ
繊細なふれあ
いをとその地
が抱える普遍
的問題を描く。
自然背景が登
場人物の心の動きを表現する手法に魅せられる。行間を読み進めて行くような映画。(OK)

●『もののけ姫』 1997年/宮崎駿監督/スタジオジブリ/配給:東宝(映画版ナウシカでもトトロでもなくあえてこちらを。ラストのアシタカ(主人公)とサン(もののけ姫)を見ると、人間の業を見せつけられたような、なんともいえないものが胸に残ります。コミック版「風の谷のナウシカ」の重さリンクしているように感じます) (TT)



●『落下の王国』 2006年アメリカ/ターセム監督/配給:ムービーアイ エンタテインメント

主人公の青年が語る思いつきのおとぎばなし。それを聞く少女の豊かな想像力で「おはなし」は魅力的に展開していきます。圧倒的な映像美は、20カ国以上の世界遺産で撮影されたもの。ほのぼのしたラストからは、ふとニューシネマ・パラダイスを思い返しました。(TT)



●『六本木の廃墟』 1992年/関根博之監督



東京の廃墟を撮り続ける作者が向かった先は、六本木にあった旧フィリピン大使館。関根の廃墟に対する接し方は常に心優しい。決して無礼な侵入者ではなく、

礼を尽くした巡礼者のようだ。

剥がれた壁、割れたガラス、朽ち果てた家財、褪色した写真、ミイラになった猫。かつての人間や生き物たちの残骸の周りには常にみどりや青々と繁っている。植物の生命力の偉大さを改めて実感させられる個人映画。(MA)

●『WATARIDORI (わたりどり)』 2001年フ



ランス/ジャック・ペラン総監督/配給:日本ヘラルド映画
地球上各地で毎年繰り返される渡り鳥の季節移動は、生命のたくまさと地球生態系の魅力

を私たちに伝えてくれます。見る者が空を渡る鳥たちと一緒に飛んでいるように感じさせる映像は前例がありません(と思います)。また音楽も全て人の声による音で良くてできています。スケールがデカインです!

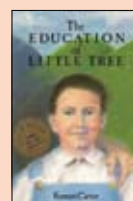
渡りという習性によって、強いもの、賢いものだけが生き残り、子孫を残せるのが自然の法則ですが、ここにも人間の活動による影響が彼らを脅かしていることを考えさせられます。そしていつまでも地球上に渡り鳥が見られるように願いたくなる美しい映画でした。

ちなみに筆者は、この映画の日本語版DVD制作時に野鳥の解説監修をいたしました。(NYA)

●執筆にご協力いただいた皆様

土肥英生:DH	土井利彦:DT	藤崎正男:FM
堀井広子:HH	池竹則夫:IN	柏原君枝:KK
水由章:MA	百瀬和浩:MK	宮本幹江:MM
長森真:NS	丹羽康勝:NYA	中村良子:NYO
緒方恵一:OK	ポール・シェファード:PS	
佐藤李青:SR	瀧本広子:TH	富永一矢:TK
高橋利行:TT	除本理史:YM	

次号予告 特集「この春、環境について考えさせてくれる本(仮)」



映画に続き、こんどは本の特集。これも環境市民会議&フレンズによる独断と偏見(!?)のおすすめ本セレクション。環境入門書、子ども向け絵本、少し学術的なもの、小説家の随筆、告発本etc...にユニークなコメント付き。いろいろありますのでどうぞ期待!来春は本を読んで視野を広げてみましょう(2010年初春発行予定)。

かんきょうフィールドワーク

パーマカルチャーセンター・ジャパン

小金井市環境市民会議では、年1回小金井市と共催で、環境関連施設の見学会「かんきょうフィールドワーク」をしています。今年のは、去年の秋川ファーマーズセンターやキッコーゴ醤油に続き、今年も小金井を出て藤野まで足をのばしてみました。目的地はパーマカルチャーセンター・ジャパン。オーガニックバイキングが美味しかったです。



自然のままの農場です。

相模原市藤野のパーマカルチャーセンターに行ってきました。若い人たちが多くかかわっていることに、驚き、若者の選択肢の1つになっていることにうれしい気がしました。パーマカルチャーという考え方に、これからの生き方を見出しているのでしょうか。人間もゆっくりゆっくり自然の動きに合わせて暮らしをつくってきたことを思い出しています。午前8時半に小金井を出発、現地に10時半頃到着。スタッフが、「パーマカルチャーとは、自然と人間の永続的（パーマネントの意）共生のための循環型ライフスタイルであること」の具体例を説明してくれました。農業のような業としてよりもむしろ自給自足で人が生きて行くための方法の一つであるとのこと。農場の形状、植物や鶏小屋の配置など、心理、機能両面で（生産性の追求というより、心の豊かさを求める）人間生活の理にかなったものであり、決して理念だけではなく、デザイン上の工夫（畑で屈まずに手入れする工夫や、虫除草の配置、トイレなどのローテク）などにも再び感銘を受けました。また、参加者の女性が、「私の長年の農業の経験からだと、こんなやりかたはしない。こうやるほうが効果あるのよ」と形を皆の前で示してくれ、これまでの日本の農業を営まれ、生きてゆくために農業を営んできた方の素朴な指摘にも感動。スタッフによると、パーマカルチャーの考えは、その土地の風土に合ったものに変えてゆけばいい、とのこと。昼食にオーガニックバイキング（お麴、ズッキーニ、タマネギの天麩羅、おから、玄米ご飯、ハーブ＆レタスのサラダ、梅の甘露煮など）をいただき、16時帰着。主催：小金井市環境市民会議（文・堀井広子 緒方恵一）

●ところでパーマカルチャーって何ですか？

（オーストラリアのビル・モリソンが提唱した）パーマカルチャーとは、パーマネントと、アグリカルチャー及びカルチャーを掛け合せた造語。自然界の生態系の一部として自分自身を位置づけ、多様性、多機能性、小規模循環、つながり、分かち合いなどをキーワードとして、永続するライフスタイルを構築するためのデザイン理論。生産、消費、廃棄のいずれかの過程でエネルギーを大量消費したり、レアメタルの枯渇、環境汚染等の問題を招く恐れがあるハイテク技術に依存しすぎず、地域の気候・風土と、長年の人の工夫によって培われた伝統技術等（ローテク）を活用した、身の丈サイズの生活革命である。具体的な方向としては・・・生活の場に存在する重力、水の流れ、太陽、風、植物、動物がもつエネルギーの活用 / 伝統的に栽培され地域の自然環境に適した、種子を自家採取できる作物の栽培 / 近代的な生活では1つの供給源に依存した電気、水道、ガス等、必要な資源・エネルギーを多くの複数の供給源から確保（水なら水道のほか、雨水、沢水、地下水） / 身の回りにある様々な要素の多機能化（庭の1本の樹木は、果物だけでなく堆肥用の落葉の供給、夏の木陰空間の提供、枯れ枝等は燃料に活用可能）など。（文・パーマカルチャー・ジャパン・小金井市環境市民会議 池竹則夫）



排泄物も肥料になる！トイレです。若いスタッフがパーマカルチャーのすごいですね。 農法を丁寧に教えてくれました。



●パーマカルチャーのことが良く分かるおすすめ本

「パーマカルチャー—農的暮らしの永久デザイン」

ビル・モリソン他（著）
田口 恒夫他（翻訳）
出版社：農山漁村文化協会
価格：¥ 2,900

独占手記

クリーン野川作戦の新たな展望へ

〔経過〕

クリーン野川作戦は、09年春の実施で第44回を数えました。今から30年前、小金井市役所で働く職員たちで構成する労働組合が、労働条件の向上をめざす春闘に、地域の市民のみなさんの理解をいただくために始めたのがクリーン野川作戦です。当初は地域全体の清掃活動（道路、公園など）も行っていましたが、数年のうちに野川清掃だけに絞られました。

当時の野川は生活雑排水の流入で大変汚れており、特にわかたけ保育園からの上流部は河道改修前のコンクリ3面張りになっていて、補強の横柱の下を腰をかがめてゴミを乗せた特製の船を引っ張りながらの大変な清掃作業でした。ときは移り、20年前には市役所の労働組合が分裂（全国で総評と同盟が解消し連合が誕生した時期）し、クリーン野川作戦は新たに誕生した小さな独立組合（小金井市役所職員労働組合）で継続実施されました。このとき今までの年1回春の実施から秋の実施も加えることになりました。（実施回数が年数と合わないのはこのため。）

当時若かった組合員も順次定年を迎え、また組合の組織率が低下していくなかで、現状では組合としてクリーン野川作戦の継続実施が困難になってきたのです。



みんなでガンバリ



上:37回水廻れ続く野川で 下:家族総出で

〔今後の展望〕

クリーン野川作戦は、当初の労働組合中心から、今では市民400人～500人が参加する地域ぐるみの環境清掃活動になっています。また、参加者の皆さんは、清掃を通して野川的环境やその変化を実感しています。組合の内部事情だけで廃止していいものなのか、ここ数年組合内部でも検討を続け悩んできました。3年前に環境市民会議に共催事業の申し入れを行ったのも、できることなら地域で残す受け皿になって欲しいとの思いからでした。

労働組合は組織された労働者の集まりですから動員力もあれば予算もあります。準備から実施までの長年のノウハウもあります。

今後、組合から離れて地域のなかで実行委員会と事務局を構成する場合は、今までのような形態（車両の手配、食事・飲み物の提供など）の継続は困難かもしれません。

野川は小金井市民の宝です。きれいな野川と流量の増大を願うシンボル事業として、地域に根付いたクリーン野川作戦の精神を継続し、みなさんと智恵を出し合い、工夫の創出で新たなクリーン野川作戦の形態を作り出していきたいと願っています。（文・内田雄二 クリーン野川作戦実行委員会事務局 環境市民会議会員）

活動報告

自然再生協議会情報連絡会(東日本)に参加して

2009年9月10・11日と、釧路において自然再生協議会情報連絡会が実施されました。

初日10日は釧路湿原における各地での取り組みを視察しました。広大な湿原では、高層・中層湿原の保全を中心に河川や水源樹林の回復・維持管理等が小委員会単位で行われています。今回は釧路川の直線部分の流路変更工事地点や、湿地への土砂堆積速度を抑えるための沈砂池設置地点、水源涵養林回復のための苗床などをバス移動で一日回りました。水系丸ごとを対象地域としているだけあり、広大な景色を臨むとそのスケールの大きさを実感します。

翌11日は、東日本各地の協議会が実施している自然再生の活動についての報告会を、釧路市内にて行いました。

秋田のブナ林や、宮城の干潟、また埼玉の平地林、荒川水域などさまざまな地域・風土における各地の活動内容や進捗状況もわかり、またそれらを次の実施計画にいかん反映させていくのか、各地の新たな試みや課題が提示されました。

私は小金井市環境市民会議から、野川自然の会に団体代表として加わって活動しています。また、この秋から再生事業の基本構想・立案等を担う協議会に関わり始め、今回は野川第一・第二調節池における自然再生活動について報告しました。発表では、

(1) 調節池周辺において「水環境の豊かだった昭和30年代頃の、身近な自然」を出来うるかぎり取り戻すということを目指設定とすること、

(2) 具体的な活動として、今年3年目になる不耕起移植・冬季湛水の田んぼや湿地を創出したことで、バラエティーに富んだ水辺環境が出来、生物層の多様化を促したこと、等を説明しました。

また、モニタリング結果の次期事業への反映の仕方、水循環システムのより自然に沿った構築や、根本的な水源確保といったことがこれからの課題であるとの認識を提示し、約10分ほどの発表を終えました。

今回このような会に参加できたことは、とても貴重な経験でした。自らが参加している活動を改めて見直し、より深く理解できるきっかけになったと思います。

(文・高橋利行 環境市民会議会員)



上二つの写真 南標茶(みなみしべちゃ)地域における土砂流入対策用沈砂池。湿原への土砂流入の量と、時間をできる限り抑制させるための施設



湿根内にて見つけたトンボ(ムツアカネ?)。湿原ではヤンマ類もさかんに飛んでいた

市民グループインタビュー

NPO法人回帰船保育所

Q1. 回帰船保育所の沿革について教えてください

1974年、前原町共同保育所としてスタートしました。子育てを始めた親が集まり自前で保育所を立ち上げました。その後、野川、武蔵野公園の自然の中での保育を続けてきました。親子が「共に育ちあう保育スタイル」はそうした中で培われました。2005年にはNPO法人化。現在は認証保育所移行、東京農工大学移転を計画していますが、スタイルは変わりません。

Q2. 回帰船保育所とはどういったところ？

回帰船保育所のフィールドは、くじらやまやはらっぱ、野川、



野川で遊ぶ回帰船の自然児たち(撮影:原島圭子)

武蔵野公園なのですが、その風景は、ここは本当に東京？と思えるくらい牧歌的です。子どもたちはそんな中

で魚やザリガニを捕まえ、木の実を拾い、鳥を追いかけて、木に登り、はらっぱに吹く風の音を楽しむなど気ままそのものです。保育者の役割はそれを邪魔しないことかもしれません。

小規模な保育所ならではの家族的雰囲気を持っています。時々、回帰船で行われる子供、OB、親を含めた飲み会などはみな自然体です。

Q3. 回帰船保育所のこだわっているところって、どんなところですか？

自然に囲まれた回帰船なので、1歩外に出れば自然に生き物森羅万象押し寄せてきます。子どもたちには、怖いものだったり、びっくりしたりいろいろなのですが、それを知らなければ2歩目がないので、まずは体験が大事だと思っています。その上で、危ないことは「危ないよ」と教えあうような共生感もありますね。余談ですが、野川周辺で食べられるものは、実際色々あるんです。例えば山梨、桑の実、野蒜、タケノコですね。それらの食べ物の採り方は地域の人が教えてくれたり。そうやって地域とつながっていると感じます。

食にも気を遣っています。COOPからオーダーしているの

ですが、大事にしているのは“手作り感”。子供たちの好みを聞くこともありますが、基本は冷蔵庫にあるものを使う。(回帰船の保育者も含め)調理スタッフも子供たちと一緒に食べる。作った人のぬくもりが伝わるようで、子供たちは家庭料理を食べているような気がするはずです。



回帰船保育所(撮影:原島圭子)

Q 保育で大変なのは率直にどんなところですか？

専門用語で“保育環境”という言葉があるのですが、簡単に言えばコミュニケーションのことです。周りの大人(保育者や親)の喜怒哀楽が子供に反映されるので、時には(保育者の想像の及ばないことで)悩んでいる子もいます。そういった子供たちを常に輪の中に入れて、温かく見守ってあげてことを心がけていますが、デリケートなことなので常に難しさを感じます。基本は、親、子ども、保育者それぞれの関係も含め、なるべく自然体がいいと思っています。

Q 村田さんにとっての回帰船は？ 回帰船から巣立っていった子供たちに言いたいことってありますか？

私自身、OBの親の紹介で1998年から関わりはじめ、最近ようやく慣れてきたという感じです。それでも対人コミュニケーションが仕事なので常に悩みはつきものです。ここから巣立っていった子供たちには、共にすごした日々を忘れないでほしい、と言いたいです。幼い頃の感受性(見つけたものや感じたこと)、素朴な疑問などを忘れずに「自然の中にいた幼児期の自分」を持ち続けてほしいですね。

(聞き手: 緒方恵一)



「むらたくんって、いつはたらいてるの?」といつも園児たちに聞かれている村田さん。保育園には珍しい男性保育者は頼もしい。時にはお父さんたちから仕事や家庭の悩みも打ち明けられるそうです。

環境市民会議メンバー・インタビュー

孤嶋章一郎さん

「22世紀の森づくり・神代」代表（小金井市環境市民会議会員）

Q：「22世紀の森づくり・神代」代表として森づくりをされていますが、そのきっかけは？

日本鉱業に勤めていた現役時代は、1972～77年に赤道直下のザイル（現・コンゴ民主共和国）で銅の鉱山開発に携わりました。モブツ大統領独裁でしたが、比較的安定していた時代です。第2の都市ルンバシから120kmほどの疎林地帯で、ボツンボツンと部落があるほかは何にもない場所で、環境破壊的な鉱山開発でした。定年になりその償いを考えていたとき、東京都広報で森づくりボランティア募集があり、参加したのがはじまりです。

Q：ザイルではどのように鉱山開発を？

調査区域内のベースキャンプで暮らし、歩いて地表を調べるのです。旧ベルギー領時代の地図を頼りに15km四方の調査地を設け、500m間隔で道を造り、1日にその道を2本歩いて調査しました。可能性があると土壌調査をやり、ボーリング調査をします。でも鉱山開発はザイルや周辺諸国の動乱のため、10年ほどで撤退しました。その撤収の際、現地の人々が突然解雇で騒ぐかと心配でしたが、まったくなく。杞憂でした。タバコやビールを買うには現金収入が必要ですが、そもそも偶然できた働き場所ですから、なくなれば元の暮らしに戻るだけ、ということなんですね。現地の食事はマニオク（キャッサバ）とトウモロコシの粉食に、昆虫、小動物や淡水魚の干物がタンパク源で、ぼくらはイタリア米や日本の食品を輸入して食べてました。このように環境が日本とあまりにも異なるところでは、上手に気分転換できないと病気になってしまう。ぼくの場合は隣国ザンビア（旧イギリス領）でゴルフをして気分転換してました。



ヴィクトリアフォールの一部（写真提供：孤嶋さん）



神代植物公園の東側にある「都市森の丘」

Q：定年後の森づくり活動はどのように？

神代植物公園東側では、虫食い状に買収された公園用地がゴミ捨て場のようで、拡張工事に先立ち森にしようと、2000年4月に「22世紀の森づくり・神代」を立ち上げました。拡張予定地は全体で9ha、うち1haが対象です。工事の味の素スタジアムと天文台通りの土砂を搬入して小さな丘にして、会員の合議で武蔵野にふさわしい明るい森にすることになりました。

会員はいま107名。50～70代で、60歳代が中心です。高木と低木・灌木の複層林づくりを進め、現在は枝打ちや間伐、草刈りが中心です。定例的作業は月4回で、臨時活動も含めて年間60日程度です。子供向けに昆虫イベントや焼きいもイベントなどもしています。

Q：小金井との関わりについてお聞かせください。

生まれてすぐ小金井に越してきて、途中の20年を除き55年間住んでいます。ぼくらが子供のころ、野川は「大川」と呼ばれていて、湧水も多く玉川上水の分水も流れ込んでいた。田んぼ、畑、雑木林という典型的な田園風景の中で育ち、行動範囲は桜町病院付近から多磨墓地あたりで、大人が子供を見守ってくれていました。定年後また野川で遊びたいと思い、2001年に「野川ピオトープの会」に参加し、ドジョウ池の掃除をお手伝いしています。いま小金井市は大型ビルが増え、「町」も世代を超えたコミュニケーションもなくなりそうで、残念ですね。

（聞き手：土井利彦・宮本幹江）

活動中の孤嶋さん（写真提供：本人）



お知らせ Information

①かんきょうサロン

「変わりつつあるヨーロッパの都市～環境・自転車中心のまち」

お話:大和田清隆さん(都市プランナー/NPO法人日本都市計画家協会)

日時:12月5日(土) 15:00-17:00(終了後、大和田さんを囲んで懇親会もあります。自由参加)

場所:コミュニティ湧(小金井市本町6-5-3 シャトー小金井1F)

料金:¥300(お茶菓子代/参加費)

内容:

2000年前後のミレニアム・バブルがはじけ、米国のリーマンショックの影響を受け、経済的に疲弊するヨーロッパの都市。しかし、すでにCO2削減や、温暖化防止、LRT(路面電車)の積極的導入、市民の自転車利用の促進など、経済発展よりも環境中心のまちづくりは決して今に始まったことではありません。今回のかんきょうサロンは、最近ヨーロッパ視察から帰国した都市プランナーの大和田清隆さんからヨーロッパのまちの環境に配慮した取り組みの現在についてお話をうかがいます。

主催:小金井市環境市民会議 後援:小金井市



ロンドンのエコビレッジ BedZED

②とんぼたんぼ収穫祭2009

野川自然の会の「とんぼたんぼ収穫祭」は、参加者と共に自然の恵みを分かち合い、自然の大切さを感じるためのイベントです。そして未来の子供たちのためにこの自然と一緒に守りましょう!

・体験コーナー:イネの脱穀と精米体験

・とんぼたんぼクイズ:田んぼの生態系やイネの不思議

・親子おむすび教室と豚汁パーティー:おむすびを握り、豚汁と一緒にいただく



稲刈り家族(野川自然の会)

開催日:2009年11月21日(土) ※雨天の場合、当日の8:00 ホームページ等で告知。

会場:とんぼたんぼ(小金井市東町5-2、野川第一調節池内)

当日スケジュール: 10:30 受付 11:00開会おむすび作り、自然解説など 13:30 たんぼクイズとプレゼント抽選会 15:00終了

参加者:どなたでも(小学生以下は保護者同伴)

参加費:おとな¥200、小学生以下¥100(保険、資料代含む) ※事前申込不要、現地受付

持ち物:マイ箸、マイ食器、軍手、飲み水、敷物などご持参ください。

服装:寒くない服装、手袋、帽子など

主催:野川自然の会/共催:野川第一・第二調節池地区自然再生協議会/協力:小金井市環境市民会議/後援:小金井市、北多摩南部建設事務所

③月例リレートーク「相談しよう、そうしよう」

第4回「音風景から、環境/地域へ関わるには? ~鳥越けい子さん(サウンドスケープ研究)に聞く」

「音の風景」と訳されるサウンドスケープ。聴くことをきっかけに、五感から風景を感じる。日常での環境との関わり方を見直すことへ、今一度、耳を傾けてみませんか。ゲストは日本でのサウンドスケープ研究の第一人者、鳥越けい子さんです。全国各地でさまざまな「音風景」を介した実践も行う、鳥越さんのお話を伺いながら、参加者と一緒に議論をしていきます。

日時:11月18日(水) 19時~

場所:小金井市役所第2庁舎8階801号室

対象:環境や、アートに関心のある方などなたでも。(小金井市内外を問いません)

定員:30名 参加費:¥500

主催:小金井アートフル・アクション!実行委員会

企画協力:小金井市環境市民会議

kamm(小金井で、芸術を伝える、メディアをつくる)

ゲストプロフィール:鳥越けい子(とりごえ けいこ)

サウンドスケープ研究/青山学院大学総合文化政策学部大学教授/著書に『サウンドスケープ-その思想と実践』、『サウンドスケープの詩学:フィールド篇』。



④第3回 環境科カリキュラム研究会

日本の教育システムを良い方向に変えるためには、「環境学習」を深く考え、地道に実践することです。

東京学芸大学の「環境+教育戦略」を検討し、次の大学カリキュラムの編成に向けて提案を準備したいと思います。学大のカリキュラムが変わり、その成果で良い教員たちが育ち、日本の教育システムがよくなることを期待しています。

ご関心のおありの方はどなたでもご参加ください。

日時:11月25日(水)、午後3時~5時

場所:環境教育実践施設 会議室

話題:1.教科「環境」の必要性和環境科カリキュラム

話題提供者:藤村コノエ 特定非営利活動法人 環境文明21 共同代表

お知らせ Information

紹介:「環境教育推進法」の骨子づくりなどの活動を中心になって進められた藤村さんは教科「環境」の新設、環境科カリキュラムも提案しておいでです。多くの方は各教科や総合的学習の時間などで環境教育を進めればよいとの考えから、環境科新設に賛成されていませんが、彼女は元文部科学大臣鈴木恒夫さんや木俣とともに数少ない環境科新設提案者です。

2.東京学芸大学環境報告書2009について

紹介と来年度に向けた課題、「環境+教育戦略」についての検討

⑥小金井アートフルアクション!

「みんなで見つけたまちのドキドキ、ワクワクをマップにしよう!」

小金井で始まったアートフルアクション! の活動の一つとして、以下のワークショップを行います。ずーっと昔からまちにあるもの、自分だけのお気に入りの場所、はじめて見たふしぎなもの……。まちのドキドキやワクワクをみんなで見つけにいくって、世界に1つしかないフィールドマップや、あなたの小金井ガイドブックをつくりませんか? 樹木や畑、古い建物、人の活動やつながり、街の歴史、自然資源、野川に沈む夕日(?)、きれいな落ち葉、そんな宝物を一緒に探



して、皆で大切に育んで行けるきっかけづくりをしませんか?

とき:12月5日(土)、
12月12日(土)

10:30~16:00

ところ:市役所西庁舎ほか

対象:小学校3年生以上(小学生は保

護者同伴)、上記の2日間通じて参加できる方

定員:20名 参加費:無料

申込先:NPOプレイス TEL 042-304-1428 FAX 042-304-2130

メール DZF14052@nifty.com

⑥第7回小金井桜落葉回収作戦

私たちのまちの貴重な歴史的文化遺産の保全・再生と環境整備のために、みんなで「落葉回収作戦」に参加しましょう!!

日時:11月28日(土) 9:00~11:00(雨天中止)

集合場所:新小金井橋南詰西・さくら公園(臨時駐車場あり)

作業区間:茜屋橋~梶

野橋付近の上水南側

★用具:竹箒、熊手、塵

取り、炭ばさみ、など出

来ればご持参下さい。

落葉を入れる袋と、作

業用の手袋は主催者

が準備します。

主催:名勝小金井桜の会落葉回収作戦実行委員会

後援:名勝小金井桜の会、小金井市教育委員会

事務局:名勝小金井桜の会 Tel.042-323-0368(石田)



●小金井市環境市民会議・入会のご案内

小金井市環境市民会議では随時、会員募集をしています。

入会方法は以下の通りです。

1.下記HPより申込書をダウンロードして事務局まで送る。

2.ご連絡先を明記の上、口座に指定の金額をお振り込みいただく。

年会費 大人3,000円 高校・大学生1,000円 中学生以下500円

・口座番号(ゆうちょ銀行):00150-0-315803

・口座名称:小金井市環境市民会議

●小金井市環境市民会議って?

小金井市環境市民会議とは、小金井市環境基本条例第27条に基づき、市民、事業者、教育機関、市などが協力して、さまざまな環境問題を解決することを目的として、小金井市環境市民会議を設立された市民団体です。メンバーは、いろいろな環境行動を企画立案して、実際に活動しています。また、市民、事業者、教育機関、市などが協力して、さまざまな環境活動を行えるように、情報とアイデアを提供し、環境活動をコーディネートしたり、環境啓発イベントを主催しています。小金井市環境市民会議に興味のある方は、事務局へお問い合わせ下さい。また入会ご希望の方は右の入会のご案内をご覧ください。会員募集中です!

編集後記

●出張の帰りにハッ塘ダム周辺に寄ってきた。日本の土木技術の高さと凄さに唖然。人里離れた地方にお金を落とすにはこういう方法しかないのか。代替地に立ち並ぶハウジングメーカーの都市郊外風建売住宅のデザインと景観とのアンバランスさ... しかし人が望むのはそういったモノなのは良く分かる。今が考え時ですね。(ク)

●緑町を散歩していた折、見慣れない蝶に出会った。帰って図鑑で調べてみるとアカボシゴマダラのような。絶滅した奄美大島の日本固有種に代わり中国からやってきた外来種で、この辺りの住宅街では初めて出会った。(ク)

●クラフト作家たちと話していたら、「小金井で綿を栽培してほしい。苧や藍もあるといいな。羊がいるとサイコー!」という話になった。畑は食べるものばかりでなく、衣素材も生み出せるはず。どなたか綿を植えてみませんか?(ミ)

小金井市環境市民会議会報 No.10

【小金井の環境を考えるためのマガジン くるりん・ば】

2009年11月14日発行

発行=小金井市環境市民会議

<http://www.koganei-kankyo.org/>

[メール] jimukyoku@koganei-kankyo.org

企画・編集=くるりんば編集部

(緒方恵一、瀧本広子、宮本幹江、串田光弘)

制作協力=小金井市 環境政策課